

Stage8

Sandcastle

砂の城

作・ジャン・バーチェット／サラ・ヴォグラール

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話しましょう。

- ・表紙と裏表紙を見てください。砂の城がどんなものか、どこにあるかについて話しましょう。
- ・2-3 ページを見て、登場人物と砂の城を確認してください。
- ・砂がどのようなものか話してください。砂糖や、何か似ているものを例にとりましょう。
- ・砂でつくったお城がどんなものかお子さんに質問してください。このお話で起こるできごとについて、どのような手がかりがえられるでしょうか。

<読んでいるときに>

自分のスピードで読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

moat 堀

ramparts 城壁

explore 調べる

shells 貝がら

amazing みごとな

collapse くずれる

flip-flop ビーチサンダル

surf 波

[p. 1]

砂の城

作・ジャン・バーチェット／サラ・ヴォグラール

絵・ジョン・スチュアート

[p. 2]

お話にでてくる人

マックス

タイガー

マックスのママ

モリー(マックスの妹)

[p. 3]

砂の城
塔
旗
城壁
トンネル
堀
橋

[p. 4]

マックスとタイガーは、海岸にいました。マックスのママとマックスの妹のモリーがいっしょでした。

「岩のそばにある向こうの砂の城を見て」マックスが言いました。「あそこまで競争だ！」

マックスとタイガーは調査しにはしっていきました。

[p. 5]

ふたりは砂の城を見つめました。それはみごとなものでした。塔のひとつには旗がはためいていました。壁は色のついた貝がらや海草でかざられていました。からっぽの掘割がありました。

[p. 6]

「すごい！」マックスが大声をあげました。「だれがつくったんだろう」

タイガーは、海岸を見わたしました。

「もうここにはいないよ」タイガーは笑いました。「入って、なかを見よう」

タイガーは時計をつかみました。

「待って！ だれかが見てるかもしれない」マックスが言いました。

[p. 7]

マックスとタイガーは、大きな岩のうしろにかくれました。ふたりは時計のダイヤルをまわして……

[p. 8]

小さくなったマックスとタイガーは、ふたりがかくれている場所から外をのぞきました。

「だいじょうぶだ」タイガーが言いました。「城へいそげ」

[p. 9]

ふたりは橋の上を突進してトンネルをぐりました。砂の壁がふたりの上にそそりたっています。

「ほんもののお城みたいだ！」マックスが言いました。

「城壁にのぼろう！」タイガーが言いました。

[p. 10]

「てっぺんまで競争だ！」

[p. 11]

「わしは恐怖のタイガー、この城の王である！」

「いいや、ちがう。強者のマックスが支配者だぞ！」

「あれは何だ」

「かくれろ！」

[p. 12]

モリーは、いまやマックスの妹のように見えませんでした。モリーはバケツをもってそびえていました。ザバツ、大きな音がしました。

「何が起きたんだ」タイガーがあえぐように言いました。

「モリーがお堀に水を流したんだ」マックスが言いました。

[p. 13]

マックスとタイガーは壁から外をのぞきました。

「モリーはどこへ行っちゃったんだ」タイガーがたずねました。

「もっと水をくみに行ったのにちがいない」マックスが言いました。「ここから出よう！」

ふたりはつるつるした貝がらの階段をすべりおりました。

[p. 14]

モリーはすぐに戻ってきました。モリーはもっともつと堀に水を流し込みました。城の壁がくずれはじめました。

「退却！」マックスがさげびました。

ふたりはトンネルをぬけて走り、橋に着きました。

[p. 15]

砂に大きなさけ目があらわれました。ごうごうという深い音がしていました。

タイガーがマックスを見ました。「出られないぞ！」タイガーは大声で言いました。

[p. 16]

砂がどんどん水の中にすべり落ちていきます。

「飛び越えるしかない」マックスはさげびました。

タイガーは頭を横に振りました。「広すぎるよ」

「じゃあ、泳ごう！」マックスは言いました。

「ワアー！」

[p. 17]

パチン！ するどいハサミが堀から飛び出てきました。

タイガーが、チョコキンととじるハサミの届かないところにマックスを引っぱりだしました。

「ひゃあー！ あぶないところでカニのえさになるところだったよ」マックスがあえぎながら言い

ました。

「さあどうしよう」タイガーがたずねました。

「とにかくいそごう」マックスが言いました。「潮が流れ込んでくるぞ」

[p. 18]

波がますます近づいてきました。大波がひとつ、ふたりのすぐ近くまできました。

「気をつけて！」マックスがさげびました。

マックスはタイガーに飛びかかって、トンネルのほうへ突き飛ばしました。

波が城のすぐそこまで押し寄せてきました。壁がくずれはじめました。

[p. 19]

そのとき、マックスが何かに気づきました。

「見て！」マックスがさげびました。

「古いビーチサンダルじゃないの」タイガーが言いました。「あれがなんの役に立つのさ」

「上に乗っかるのさ」マックスは言いました。「次の波がきたら、安全なところまで乗っていくんだ」

[p. 20]

ふたりはビーチサンダルによじ登りました。ふたりはありったけの力でプラスチックのはなおをにぎりました。

「波がきたぞ！」タイガーはさげびました。

新しい波が砂の城に流れこみました。ふたりのビーチサンダルはただよいはじめました。

[p. 21]

波がビーチサンダルをつかまえて押しだしました。マックスが金切り声をだしました。タイガーは雄たけびをあげました。

「しっかりつかまれ！」マックスがさげびました。

[p. 22]

ふたりは、砂の城の残がい波乗りをして通り過ぎ、海岸に着きました。ビーチサンダルはかわいた砂のうえでとまりました。

[p. 23]

「ふたりともどこへ行っていたの」マックスのママがたずねました。

「えーと、船こぎだよ」マックスがすかさずこたえました。

「船こぎ？ ふたりともずぶぬれじゃない！」

「波にうたれたんだ」マックスが言いました。

「そうそう」タイガーは言いました。「大きな波だったんだ！」

[p. 24]

着る、ぬる、かぶる

海岸はたのしいところです。でも、暑い晴れた日には安全を考えなければいけません。そこで、次の「着る・ぬる・かぶる」をわすれないでください。

- ・シャツを着る
- ・日焼け止めをぬる
- ・帽子をかぶる

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・モリーは、水といっしょに何を堀に入れたでしょう？
- ・どうして砂の城はくずれはじめてこわれたのかな？
- ・この本のなかで、マックスとタイガーはどんな気持ちだったと思う？
- ・太陽の下にでるとき、安全のためにおぼえておかなければいけないことは何だろう。

じぶんのことばでこの話をするようにお子さんにすすめてください。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

海や砂場が近くにあれば、お子さんと砂の城をつくってはいかがですか。厚紙や紙、レゴなどのブロックでつくってもいいですね。そのあとで、お子さんは自分の物語をつくるためにおもちゃの人形を使ってもよいかもしれません。